

日本教育社会学会「倫理に関する会員調査（2022）」調査結果 要約

責任編集 日本教育社会学会・倫理委員会

1. 調査の概要

(1) 調査目的と調査方法

本調査は、2022年11月10日～12月10日にかけて、日本教育社会学会会員に対して、Google FormによるWeb調査で実施された「倫理に関する会員調査」である。

この調査のねらいは、(1)「倫理規程」(2019年施行)や「倫理ガイドライン」(2021年施行)の認知度や活用状況を把握すること、(2)研究倫理その他倫理問題に関して、会員がどのような課題や意見を持っているかを明らかにすること、(3)「倫理委員会規程」(2021年施行)に定める倫理委員会に対する会員のご期待やご意見をうかがい、今後の活動方針の指針となる基礎的な情報をえることにあった。調査を契機として、倫理規程及び倫理ガイドラインの会員への周知をはかることも目的の一つであった。

調査実施時期にもっとも近い2022年12月24日時点の個人会員数は1440名であり、調査への回答者数は305名であった。回収率は21.18%である。

(2) 調査内容

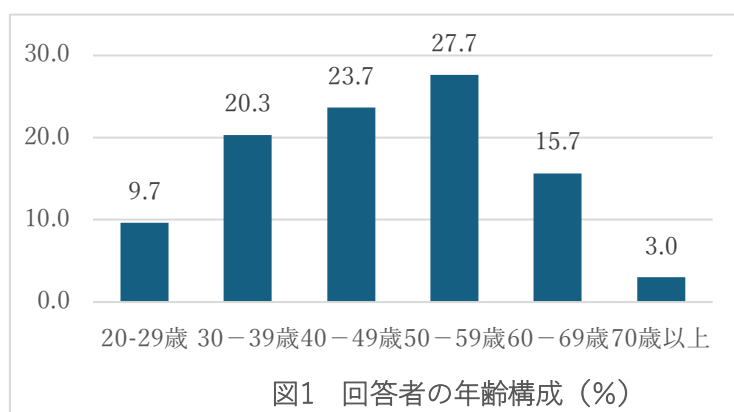
調査項目は、属性、倫理規程や倫理ガイドラインの認知度と利用状況、倫理問題の経験、研究倫理に関する研修、学会主催の研修会の内容への希望、研究倫理に関する自由記述である。

2. サンプル構成

(1) 性別 全回答者305名の性別は、男性61.3%(n=187)、女性37.7%(n=115)、その他0.3%(n=1)、未回答0.7%(n=2)であった。

(2) 年齢構成

年齢の未回答5名を除く、300名の回答者の年齢構成(%)は図1の通りである。



(3) 職・身分

有効回答 303 名のうち、「研究・教育職」は全体の 80.2%、「院生・学部生・研究生」が 12.2%、「ポスドク」1.0%、「学校の先生、官公庁、民間など（その他、事務職等を含む）」が 6.6%であった。

3. 調査結果の要約

(1) 倫理規程、倫理ガイドラインの認知度、利用度

本学会の「倫理規程」について、「規程の存在を知らなかった」会員は、12.6%であった。「規程の存在は知っているが、まだ読んでいない」会員は 31.5%、「必要なところだけ、読んだ」会員は 11.3%、「一度くらいは、速読したことがある」が 34.4%、「よく読んで、研究等の活動の指針としている」会員は、10.3%であった。

「倫理ガイドライン」については、倫理規程よりは認知度・利用度ともにやや低めの数値であった（結果の詳細は、巻末の表を参照のこと）。

(2) 研究倫理問題の経験率

研究倫理問題の経験を 9 項目提示し、経験ありの場合に、チェックをいれてもらった。図に示す全ての項目に 1 つ以上の回答をした会員は、全体 305 名のうち 94 名で、全体 305 名のうち 30.8% (n=94)、つまり全体の約 3 割が何らかの研究倫理問題の経験がある。

Q9 全体では 211 名の経験件数となり、該当者 94 名は平均して 2.24 件の倫理問題の経験を報告していた。

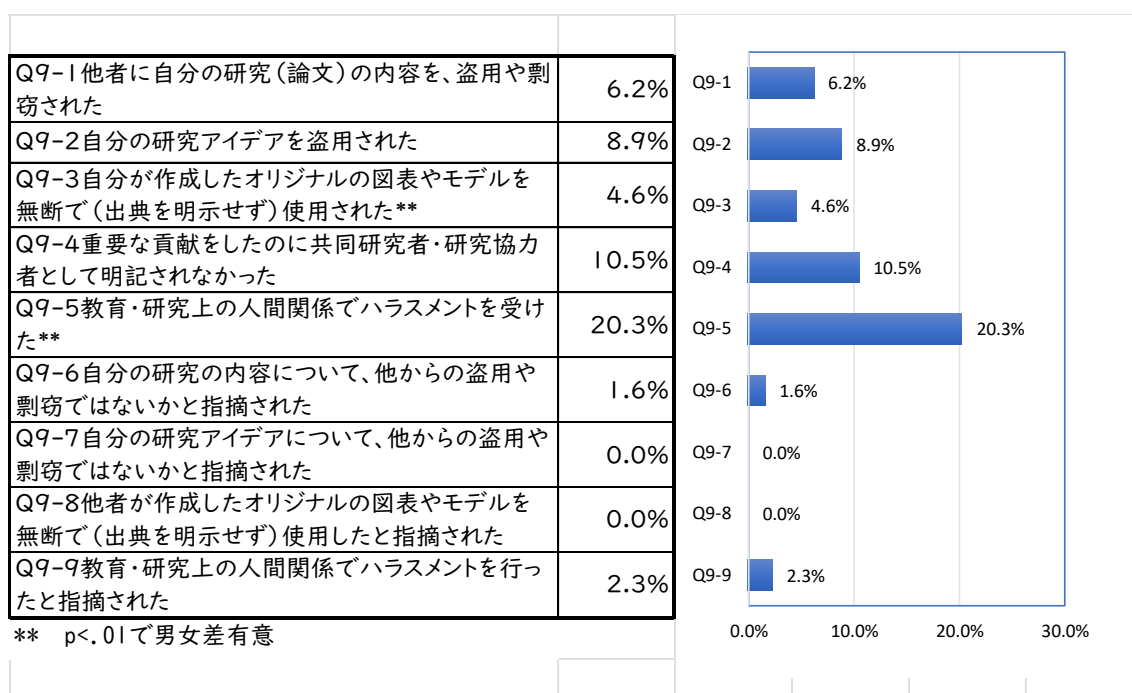


図1 倫理問題（Q9）の経験率（%）

(3) 倫理問題の男女差、年齢差

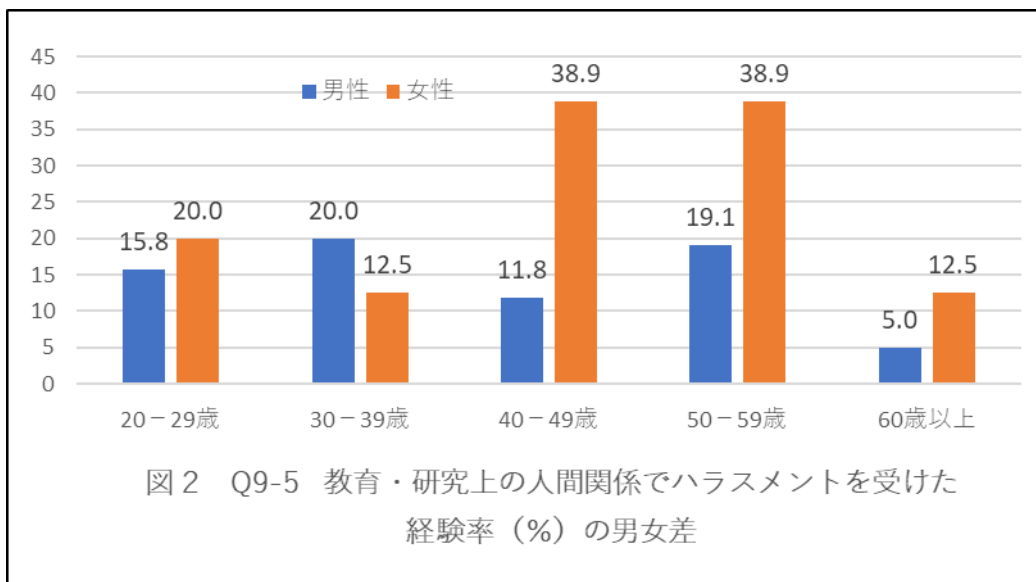
以下、男女差と年齢差を中心に Q9 の主な被害の経験率について要約した。

3.1 ハラスメント経験率は 20.3% で、男性 14.4% に対し、女性 30.4% と倍以上の経験率で、年齢が高いほど被害率が高い。

「教育・研究上の人間関係でハラスメントを受けた」を選んだ回答者の比率は、女性にとくに高い値となり、30.4% の女性会員が経験ありという結果であった。

年齢別でみると、50-59 歳がもっとも高く、27.7%、次いで、40-49 歳 (25.4%)、30-39 歳 (18.0%)、20-29 歳 (17.2%)、60 歳以上 (7.1%) である。

これを男女別・年齢別に集計した結果が、図2である。40 歳～59 歳の女性の経験率が 38.9% と高く、約 4 割の被害率となっていた。20 代女性は 20.0%、30 代女性と 60 代以上の女性は 12.5% である。年齢が上がると、被害経験が増えていく可能性が考えられる。



3.2 オーサーシップの問題は、全体の 10.5%

「重要な貢献をしたのに共同研究者・研究協力者として明記されなかった」と答えた会員は、10.5% であり、男性 9.1%、女性 13.0% であり、統計的に有意な差ではなかったが、女性の経験率のほうが高めになっている。

3.3 アイデアの盗用は、全体で 9.1%

「自分の研究アイデアを盗用された」と回答した会員は、全体の 9.1% であった。男女で有意な差はなかったが、女性のほうの数値がやや高い。

3.4 盗用や剽窃の被害経験率は、6.2%

「他者に自分の研究（論文）の内容を、盗用や剽窃された」と回答した会員は、全体の6.2%で、男性 5.3%、女性 7.8%で、統計的に有意な差ではなかったものの、女性の率が高い。

3.5 オリジナルの図表やモデルの引用不十分・盗用は、全体で 4.6%だが、女性で高い

「自分が作成したオリジナルの図表やモデルを無断で（出典を明示せず）使用された」会員の率は、全体で 4.6%だが、男性 2.1%、女性 8.7%と有意に女性の経験率が高いことがわかった。

4. 研究倫理の研修の受講経験

研究倫理に関する「研修の機会を得たことがない」会員は、有効回答 300 名のうちの 29 名で 9.7%であった。「所属先等で研修が必須とされており、受講している」者は全体の 83.0%で最も多い。「所属先等で研修は必須とされていないが、受講している・受講したことがある」者は 6.3%であった。

5. 本学会に期待する研修内容

複数選択で、本学会主催の研修内容について回答してもらったところ、もっとも多かったのは、「インタビュー等の質的調査における倫理問題やその解決法」で 67.9%の会員が選択した。次に多かったのが「子どもや学校などへの調査などの許諾を得る方法」で 65.2%、3 番目に「アンケート調査等の量的調査における倫理問題やその解決法」54.8%、4 番目に「Web 調査やインターネット調査、クラウド調査に関する諸問題」で 51.1%が選択した。他については、集計結果を参照されたい。

6. 倫理問題に関する自由回答結果の要約

本調査では研究倫理問題に関する経験について、上記の多肢選択式の項目以外の経験について、可能な範囲において自由記述で回答することを求めた。この設問には 26 件の有効回答が寄せられた。1 件の回答に複数の事案を包摂するものも含まれており、また上記多肢選択式の設問で回答された内容の詳細の説明を意図したと判断される内容のものも散見された。

これらの回答の内容を大まかに分類すると、A.研究（論文）内容やアイデアの盗用の被害を被ったこと、B.オーサーシップの不適切な扱い、C. 研究倫理に関する問題について相談を受ける、指導する、不正を摘発するといった経験の具体的な内容が回答された。

このうち A.に関しては、共同研究者や大学院生時代の指導教授によるデータ、成果の盗用ないし流用を受けた（あるいは受けそうになった）経験のほか、投稿論文の査読プロセスでの査読者によるアイデア盗用を強く疑った経験も回答された。

B.については、回答者が共著者として顕名されるべき成果において、そもそも氏名が掲載されなかった経験やファーストオーサーとして掲載されるべき成果においてそのように扱われなかったという経験が回答されたいっぽう、自らの関知しないところで出版物や助成金申請のグループに名前が用いられていたという経験も回答された。

C.に関しては、知己の研究者から研究倫理不正被害の相談を受けた経験や、所属組織（大学や学会）において研究倫理不正の具体的な問題への対応や予防措置に携わった経験が回答された。またこの点に関して、当学会の倫理規定の不足を指摘する回答も得られた。

さらに上記3点のほかに、学会発表時に差別的な発言を受けたという回答や、研究倫理規定が厳しく運用される環境下では調査ができなくなっているという回答も寄せられた。

これらの回答に加え、本調査における「研究倫理に関して日頃考えていることや感じていることがあれば、自由にお書き下さい」という設問への回答（有効回答数51件）からは、本学会会員が認知する研究倫理上の問題の原因を、以下のように整理することができる。

「教員—学生間に典型的にみられる力関係」これは研究者同士であっても年長者—年少者の関係において見出すことができる、伝統的価値観に根差した力の差に基づく研究倫理不正・ハラスメントを指摘する回答が得られた。

「オーサーシップに関する理解・敬意の不足」これは研究者間にとどまらず、出版社等におけるオーサーシップへの理解や敬意の不足も指摘できる。単なる理解不足ではなく研究者による悪意に基づく剽窃や盗用を指摘する回答も得られた。

「ルールの不在ないし不十分さ」このことは、回答者の過去の経験に多く見出すことができる、複数の回答者が新たなルール作りに従事した経験があることも明らかになった。

「ルールの適切な運用の困難さ」仮に研究倫理に関するルールがあっても同業者間での運用には限界があり、結局は被害を訴えた者の「泣き寝入り」につながりやすいという指摘が複数得られた。その一方で、過度に厳格なルールの運用に起因する研究計画の停滞も指摘された。

このいっぽうで、自由記述においては会員が直面する研究倫理上の課題解決に向けた提案も得られた。まず特筆すべきは「個別の研究倫理上の課題に関する具体的な研修機会の要」であろう。とりわけZoomやFormsを用いたオンラインでの調査のガイドラインや、国際共同研究における調査の留意点、法制に整合した個人情報保護の方法など、常に新規の課題に対応した研修を求める回答は多く見られた。

その一方で、所属機関での倫理研修の機会が十分あるので学会にはその機能は期待しないという回答もあった。

所属機関の機能の中でも、倫理審査の機能を持たない機関に所属する会員、あるいは所属機関を持たない会員の権利の保障のために当学会に倫理審査の機能を期待するという回答も複数得られた。このことに関連して、所属機関において教育社会学以外の領域の倫理審査の基準が優勢である場合など、教育社会学分野の研究計画が理解されにくいといった経験を有する回答者からも、当学会での倫理審査の可能性について示唆された。

また、複数の学会間で倫理規定を調整することの可能性を示す回答や、所属機関をまたいだ個人間の倫理問題の調停の機能を学会に期待する回答も見られた。

さらに、問題解決の機能とは別に、学会ウェブサイトでの情報共有や、研究倫理問題に関する会員間の情報交換の場を設けることの可能性も指摘された。

以上

執筆者 1～5,結果集計 片岡 栄美

6 森 利枝

(2025 年 6 月 23 日作成)

日本教育社会学会「倫理に関する会員調査2022」集計結果

2025年6月

Q1

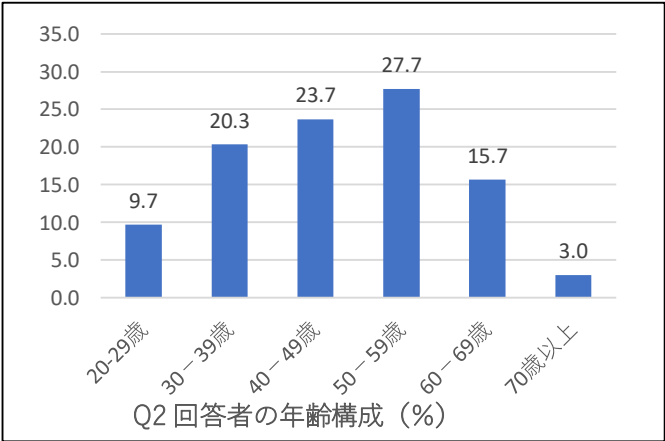
あなたの性別は次のどれにあたりますか。調査の性格上この項目はなるべくお答え
いただきたいのですが、無回答でも結構です。

		度数	パーセン ト	有効パー セント
有効	男性	187	61.3	61.7
	女性	115	37.7	38.0
	その他	1	0.3	0.3
	合計	303	99.3	100.0
欠損 値	システム欠損値	2	0.7	
合計		305	100.0	

Q2

あなたの年齢は次のどれにあたりますか。調査の性格上この項目はなるべくお答え
いただきたいのですが、無回答でも結構です。

		度数	パーセン ト	有効パー セント
有効	20-29歳	29	9.5	9.7
	30-39歳	61	20.0	20.3
	40-49歳	71	23.3	23.7
	50-59歳	83	27.2	27.7
	60-69歳	47	15.4	15.7
	70歳以上	9	3.0	3.0
	合計	300	98.4	100.0
欠損 値	システム欠損値	5	1.6	
合計		305	100.0	



20-29歳	9.7
30-39歳	20.3
40-49歳	23.7
50-59歳	27.7
60-69歳	15.7
70歳以上	3.0

Q3 あなたは、主に次のどれにあたりますか。最も当てはまるものを一つ選んで下さい。

		度数	パーセン ト	有効パー セント
有効	常勤・専任	223	73.1	74.1
	非常勤・属託	20	6.6	6.6
	大学院生・学部生・研究生	39	12.8	13.0
	学校の先生、官公庁、民間企業・シンク タンクの方などで、上記にあてはまらない	13	4.3	4.3
	その他	6	2.0	2.0
	合計	301	98.7	100.0
欠損値	システム欠損値	4	1.3	
合計		305	100.0	

Q4

あなたのお主なお立場を一つお答えください。

		度数	パーセン ト	有効パー セント
有効	研究・教育職	243	79.7	80.2
	ポスドク	3	1.0	1.0
	事務職・URA・IR担当等	3	1.0	1.0
	院生・学部生・研究生	37	12.1	12.2
	学校の先生、官公庁、民間企業・シンク タンクの方などで、上記にあてはまらない方	14	4.6	4.6
	その他	3	1.0	1.0
	合計	303	99.3	100.0
欠損値	システム欠損値	2	0.7	
合計		305	100.0	

Q5

あなたのお仕事は、任期（定年年齢） が限られていますか。

		度数	パーセン ト	有効パー セント
有効	任期（定年年齢）あり	162	53.1	53.5
	任期（定年年齢）なし	107	35.1	35.3
	該当しない・わからない	34	11.1	11.2
	合計	303	99.3	100.0
欠損値	システム欠損値	2	0.7	
合計		305	100.0	

Q6

本学会の「倫理規程」を読んだことはありますか。当てはまるものを一つ選んで下さい。 <https://jses-web.jp/rules/ethicalcode>

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	規程の存在を知らなかった	38	12.5	12.6
	規程の存在は知っているが、まだ読んでいない	95	31.1	31.5
	必要なところだけ、読んだ	34	11.1	11.3
	一度くらいは、通読したことがある	104	34.1	34.4
	よく読んで、研究等の活動の指針としている	31	10.2	10.3
	合計	302	99.0	100.0
欠損値	システム欠損値	3	1.0	
合計		305	100.0	

Q7

本学会の「倫理ガイドライン」を読んだことはありますか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	倫理ガイドラインの存在を知らなかった	58	19.0	19.2
	倫理ガイドラインの存在は知っているが、まだ読んでいない	99	32.5	32.8
	必要なところだけ、読んだ	30	9.8	9.9
	一度くらいは、通読したことがある	92	30.2	30.5
	よく読んで、研究等の活動の指針としている	23	7.5	7.6
	合計	302	99.0	100.0
欠損値	システム欠損値	3	1.0	
合計		305	100.0	

Q8

あなたは本学会の倫理ガイドラインを、院生・学部生等への指導など教育に利用したことがありますか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	ある	33	10.8	10.9
	ない	194	63.6	63.8
	学生を指導する立場にない	77	25.2	25.3
	合計	304	99.7	100.0
欠損値	システム欠損値	1	0.3	
合計		305	100.0	

Q9 倫理問題の経験率（全体、男女差、年齢コホート差）

Q9_1～Q9_9に1つ以上回答した会員数=94名

回答者全体305名中の30.82%にあたる

Q9-1他者に自分の研究（論文）の内容を、盗用や剽窃された

		度数	パーセント	有効パーセント	男性	女性	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
有効	なし	286	93.8	93.8	94.7	92.2	100.0	95.1	94.4	90.4	94.6
	あり	19	6.2	6.2	5.3	7.8	0.0	4.9	5.6	9.6	5.4
	合計	305	100.0	100.0	p=.389		(n.s.)5セルの期待度数が5未満				

Q9-2自分の研究アイデアを盗用された

		度数	パーセント	有効パーセント	男性	女性	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
有効	なし	278	91.1	91.1	92.5	88.7	100.0	86.9	93.0	88.0	94.6
	あり	27	8.9	8.9	7.5	11.3	0.0	13.1	7.0	12.0	5.4
	合計	305	100.0	100.0	p=.259		(n.s.)2セルの期待度数が5未満				

Q9-3自分が作成したオリジナルの図表やモデルを無断で（出典を明示せず）使用された

		度数	パーセント	有効パーセント	男性	女性	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
有効	なし	291	95.4	95.4	97.9	91.3	100.0	100.0	88.7	95.2	98.2
	あり	14	4.6	4.6	2.1	8.7	0.0	0.0	11.3	4.8	1.8
	合計	305	100.0	100.0	p=.009		(n.s.)5セルの期待度数が5未満				

Q9-4重要な貢献をしたのに共同研究者・研究協力者として明記されなかった

		度数	パーセント	有効パーセント	男性	女性	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
有効	なし	273	89.5	89.5	90.9	87	100.0	85.2	91.5	83.1	94.6
	あり	32	10.5	10.5	9.1	13.0	0.0	14.8	8.5	16.9	5.4
	合計	305	100.0	100.0	p=.279		(n.s.)1セルの期待度数が5未満				

Q9-5教育・研究上の人間関係でハラスメントを受けた

		度数	パーセント	有効 パーセント	男性	女性	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
有効	なし	243	79.7	79.7	85.6	69.6	82.8	82.0	74.6	72.3	92.9
	あり	62	20.3	20.3	14.4	30.4	17.2	18.0	25.4	27.7	7.1
	合計	305	100.0	100.0	p<.001		$\chi^2=10.278, p<.05$				

Q9-6自分の研究の内容について、他からの盗用や剽窃ではないかと指摘された

		度数	パーセント	有効 パーセント	男性	女性	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
有効	なし	300	98.4	98.4	97.9	99.1	100.0	98.4	97.2	98.8	98.2
	あり	5	1.6	1.6	2.1	0.9	0.0	1.6	2.8	1.2	1.8
	合計	305	100.0	100.0	(n.s.)2セルの期待度数が5未満		(n.s.)5セルの期待度数が5未満				

Q9-7 自分の研究アイデアについて、他からの盗用や剽窃ではないかと指摘された

		度数	パーセント	有効 パーセント	男性	女性
有効	なし	305	100.0	100.0	100.0	100.0
	あり	0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9-8 他者が作成したオリジナルの図表やモデルを無断で（出典を明示せず）使用したと指摘された

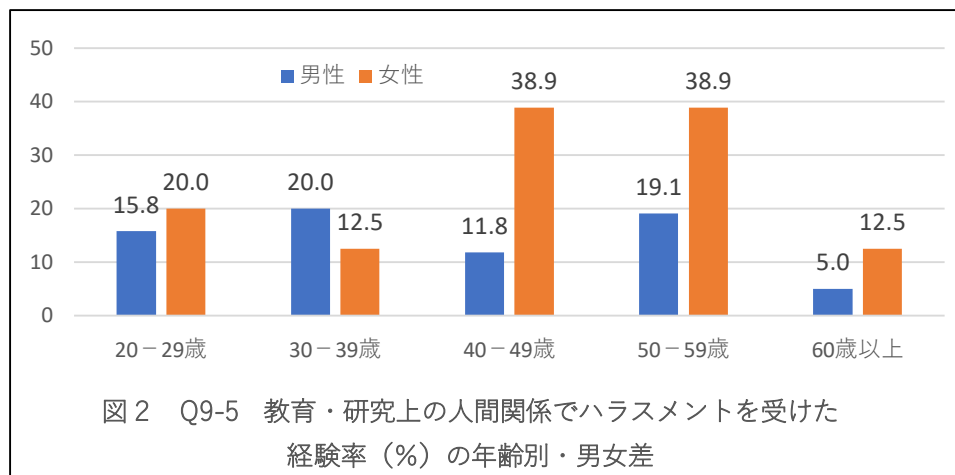
		度数	パーセント	有効 パーセント	男性	女性
有効	なし	305	100.0	100.0	100.0	100.0
	あり	0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9-9教育・研究上の人間関係でハラスメントを行ったと指摘された

		度数	パーセント	有効 パーセント	男性	女性	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
有効	なし	298	97.7	97.7	97.3	98.3	96.6	96.7	100	96.4	98.2
	あり	7	2.3	2.3	2.7	1.7	3.4	3.3	0	3.6	1.8
	合計	305	100.0	100.0	n.s.		(n.s.)5セルの期待度数が5未満				

Q9-5 男女別・年齢別集計結果

教育・研究上の人間関係でハラスメントを受けた



Q10

Q9に挙げられた項目以外に研究倫理に関する問題を経験したことがあれば、差支えのない範囲でそのことについてお書きください。

結果は、要約資料6にまとめています

Q11

研究倫理に関する研修の受講経験について最も当てはまるものを一つ選んでください。

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	所属先等で研修が必須とされており、受講している	249	81.6	83.0
	所属先等で研修は必須とされていないが、受講している・受講したことがある	19	6.2	6.3
	研修の機会を得たことがない	29	9.5	9.7
	引用のルールなどは職場で定期的に研修を受けている	1	0.3	0.3
	科研費で必須とされて受講した（所属先ではそれ以外の全員必須の研修はない）	1	0.3	0.3
	所属先で研修が必須とされており、受講したことがある。今年度は受講していない。	1	0.3	0.3
	合計	300	98.4	100.0
欠損値	システム欠損値	5	1.6	
合計		305	100.0	

Q12

本学会の倫理委員会にどのような機能を求めますか。当てはまるものをすべて選んでください。<https://jses-web.jp/rules/ethics-committee>

		度数	選択率
1	研究倫理に関する研修	115	37.7
2	研究倫理に関する相談の受付・アドバイス	177	58.0
3	その他（具体的に）＊	19	6.4

＊当学会による倫理審査の実施を求める回答が複数寄せられたほか、倫理規定や倫理審査に関する研究の遂行ならびに学会大会でのセッションの開催、研究倫理上の問題となる事例集の発行などを求める回答などがあった。

Q13

本学会主催の、研究倫理に関する専門家の講演会やワークショップがあれば参加したいですか。当てはまるものを一つ選んで下さい。

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	参加したい	37	12.1	12.4
	内容次第では参加したい	244	80.0	81.6
	参加したくない	18	5.9	6.0
	合計	299	98.0	100.0
欠損値	システム欠損値	6	2.0	
合計		305	100.0	

Q14

本学会主催の研修会として、どのような内容のものが提供されればよいとお考えになりますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。

研修内容	n	選択率
Q14-1 アンケート調査等の量的調査における倫理問題やその解決法	167	54.8%
Q14-2 インタビュー等の質的調査における倫理問題やその解決法	207	67.9%
Q14-3 共同研究の心得や共同調査にけるトラブルの回避方法	105	34.4%
Q14-4 子どもや学校などへの調査などの許諾を得る方法	199	65.2%
Q14-5 海外で調査研究を実施する場合の研究倫理問題と心得	106	34.8%
Q14-6 Web調査やインターネット調査、クラウド調査に関する諸問題	156	51.1%
Q14-7 ハラスメントなどの人間関係に関する諸問題	75	24.6%
Q14-8 ジェンダー問題、LGBTQ問題など	79	25.9%

Q15

研究倫理に関して日頃考えていることや感じていることがあれば、自由にお書き下さい。

結果は要約資料6にまとめています

以上